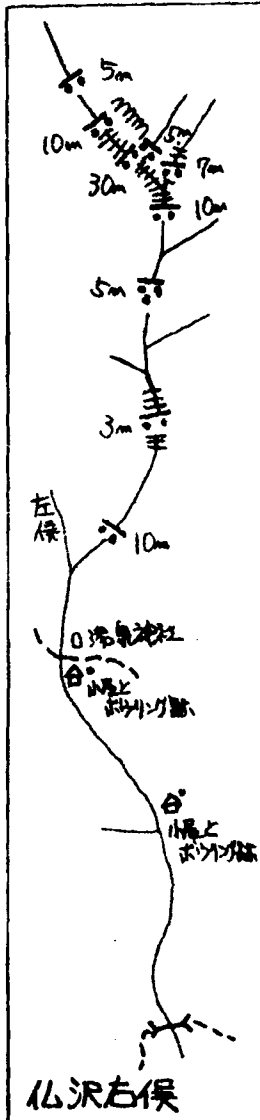


## 安達太良山・仏沢右俣

1983年6月25日

L



きれいなナメ滝があるという情報はあったのだが、我が会ではまだ遡行していなかった仏沢右俣を目指す。左俣は2年前の半沢パーティが登っているのだが、平凡そのものであったようだ。今回の山行も二俣までは全く平凡。その先に期待をかけての遡行である。

8:30遡行開始。水はまだ冷たい。予想通り(?)二俣までは全く平凡である。約1時間。ひたすら歩くのみである。途中2ヶ所に小屋跡とボウリング跡を見た。

9:30いよいよ右俣に入る。すぐに10m階段状の滝が出てきた。ホールド多く、右岸を簡単に直登する。この先またしばらく平凡となる。

F2 5mのどまん中をシャワーで直登してぬけ少し進むと、噂に聞いていた大きなナメ状の滝が姿を現わす。左岸から入る2本の支沢をはじめ、上から下まで全て傾斜をもった斜瀑である。落差が大きいので迫力充分。思わずカメラを出してシャッターを切る。でも登るにはそれほどの苦労はいらない。手頃な傾斜なので、フリクションをきかせればそれほど苦労なく登れる。

11:05沢は再び平坦に近くなった。この先は藪の中に入りこむだけである。もうこれ以上進むこともあるまいと、遡行を打ち切って下山する。(記・)

[タイム] 仏沢出合(8:30)→二俣(9:30)→遡行終了(11:05)

## 安達太良山・硫黄川

1983年9月23日

Lj

国道115号線姫沼近くに車を置いて出発。高森川から硫黄川に入る。まもなく上部が土砂で平らとなった砂防ダムが2つ。やがて右手に草木1本生えていない土の壁が見られる。まるで西部劇のスクリーンのようなものである。この上は硫黄精錬所跡になっているはずである。そこに水を送っていたと思われる鉄パイプが沢をまたいでいる。硫黄川の水は酸っぱくてとても飲めたものではないが、このパイプからあふれた水は冷たくてうまい。

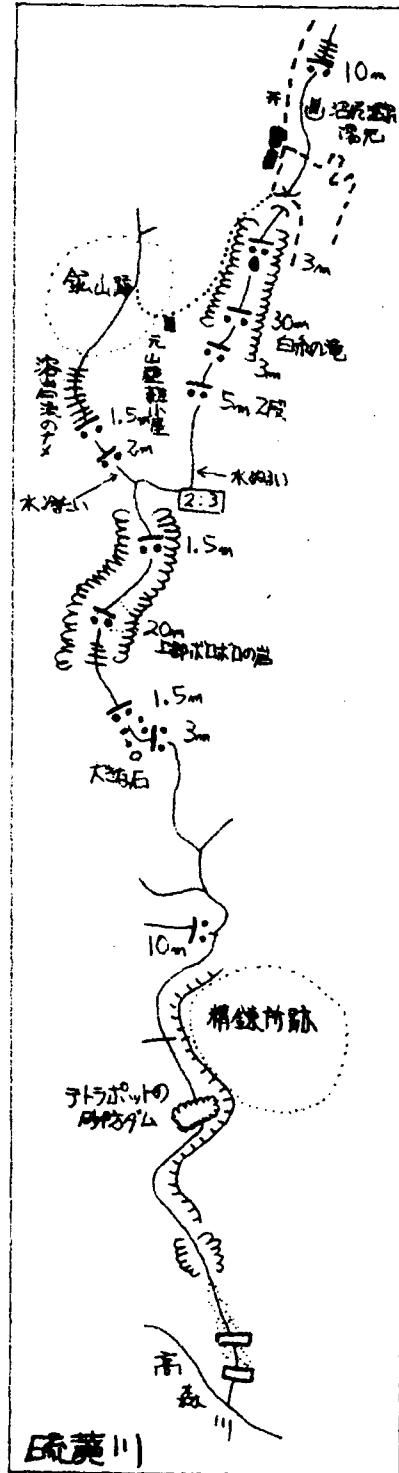
平凡な沢を更につめてゆくと、突然滝の音。近づくと約20mの滝。登れそうなので、私がトップでシャワーで試みる。すべることもなく半分以上登るが、最後の数mがボロボロの岩で苦勞する。結局西さんに右手に逃げてもらい、ザイルをたらしってもらってようやく捲く。

この滝の上流は小規模ながらゴルジュ状となってくる。やがて二俣。右俣(本流)に入る。小滝2つを越えた所で白糸の滝。30mはありそうだ。直登はとうてい無理。捲くにしても少し時間がかかりそうで、左俣の調査をしてから白糸の滝まで下降してこようということになり、二俣まで戻る。

左俣に入ると、水が急に冷たくなる。小滝2つを越すとナメ。それも安達太良の噴火時の溶岩流が沢床を流れてできたもので、かなり長く続いている。やがて沢がひらけ、両岸は根曲がり竹の藪となってくる。

陽の当る溶岩の台地の上で昼食をとるが、この辺りは地竹採りのメッカといった所だろうか。空缶・空ビンが散らばっている。やがて鉾山跡に出る。水は坑口から流れでているだけで、ここからは溜沢となっている。

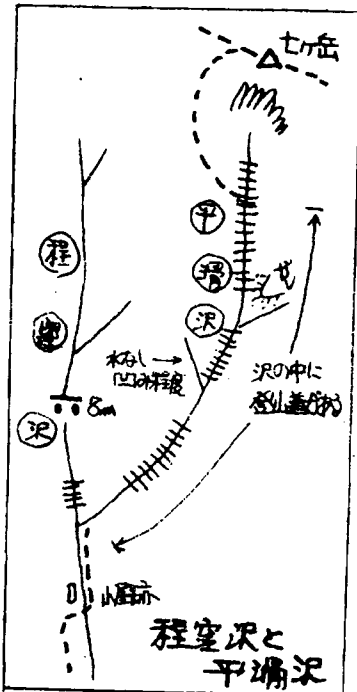
胎内岩の岩壁が見えてくるが、藪こぎをする気



にもならず、左岸にみえる元山避難小屋に出て本流の方を目指すことにする。

枝沢をつめ、踏跡をたどって、1220mの平坦な台地上の小屋に到着。ここは元山小中学校の跡で、廃校の後避難小屋としたもののようである。しかし、現在はすっかり荒れてしまっていて、小屋としては使用不可能なので注意。ここからは踏跡をたどって白糸の滝の上に出る。この辺りは鉾山の住宅が建ち並んでいたが、閉山後、テレビドラマのロケで燃やしてしまったそうである。

白糸の滝の上で再び沢に入るが、ここは水ならぬ湯が流れている。沼尻温泉の湯元がすぐ上にあるせいである。ミニゴルジュとなり、2m程の滝がかかる。その前は大きなプール状となっていて、相当の深さである。少し戻って右岸を登り、登山道に出る。



ここで小休止。あとは登山道から見えるナメ滝までつめて、下山する。 (記・)

[タイム] 硫黄川出合(8:40)→二俣(10:50)→白糸の滝(11:10)→二俣(11:30)→左俣遊行終了(12:20)→元山避難小屋(12:55)→白糸の滝(13:10)→遊行終了(13:40)

### 七ヶ岳・程窪沢

1983年5月15日

橋内憲治

前夜は登山口の標識のある所に車を止めて、その中で眠った。今朝は割合早く目がさめてしまい、4:55

出発となる。1/2.5万地図とは少し林道の様子が違うようだが、とにかく標識通りに進んで、5:40程窪沢に到着。

まだ5月中旬ということもあって、水は相当に冷たい。平凡な河原が30分程続いて、ようやくF1 8mとなる。しかし滝は続かず、まもなくブッシュがかぶってくる。目立つのはヤマウドばかり。でも今回の山行の目的はこれである。

6:15水も少なくなってきたので、引き返すことにする。 (記・橋内憲治)

[タイム] 登山口(4:55)→程窪沢出合(5:50)→遊行終了(6:15)